

図書館のNEWSと学生生活に役立つリテラシー情報をお届けします



三重大学附属図書館報「学塔」

Autumn 2018

特集 図書館について もう一度考えてみよう!

From Students

- 写真部「6月展」
- 標本サークル「第二回展示会」

ここから広げよう

- 各学部の先生からのオススメ本

News!

- 秋の文献検索講習会を開催します!

ブックロウの Pick Upコーナー

- 所蔵資料展示「津阪東陽の文事」
- MEIPL サポートデスク
- レファレンスPOP展示報告
- 試験期のマナーアップ活動
- 「新生活応援本」展示報告
- オープンライブラリー開催報告

附属図書館公式ツイッター 順調にツイート中!

3月から附属図書館公式ツイッターを始めて、ツイート数は57 (2018年8月20日現在)! 附属図書館や環境・情報科学館の役割立ち情報をつぶやいています。ぜひフォローしてください!!

- @MieULib
- 三重大学附属図書館



From Students

写真部「6月部展」

6月18日~22日、附属図書館1階の玄関ホールにおいて三重大学写真部が「6月部展」を開催しました。今年度入部した部員にはフィルムカメラを貸し出し、モノクロ写真に挑戦してもらいました。また、上級生も今まで以上に成長した作品を展示することができました。

今回の部展はテーマフリーであったため、動物から風景に至るまで様々なジャンルの写真がありました。図書館一階の人通りが多い場所で開催したために、多くのアンケートを書いていただきました。今後の活動がさらにより良いものにできるように活用させていただきます。



光が幻想的に表現されていて、引き込まれてしまいそうな素敵な写真ですね



標本サークル「第二回展示会」

5月14日~5月31日の期間に図書館1階の玄関ホールにて第二回展示会を行いました。今年度は、「チョウと食草」をメインテーマとしており、標本だけでなくその作製方法や管理方法にも触れた解説を展示いたしました。昨年度に続き、学年や学部を問わず多くの方にご覧いただけたことを嬉しく思います。また、お褒めの言葉やもっと多彩な標本を見たいといった意見もいただくことができ、今後もより一層活動を盛り上げていく励みとなりました。当サークルの活動を通して、多くの方に生き物と標本の魅力について知っていただけたら幸いです。



丁寧に作製された標本、見ごたえがありました!



News!

秋の文献検索講習会を開催します!

	10/22(月)	10/23(火)	10/24(水)	10/25(木)	10/26(金)
10:30~12:00	Web of Science and EndNote	クラウドを活用した文献の収集管理	国内	国内+海外(理系)	SciFinder
13:00~14:30	Web of Science and EndNote		国内+海外(理系)	国内+海外(文系)	SciFinder
14:40~16:10		クラウドを活用した文献の収集管理			

国内	←CiNii Articlesを使った国内文献の入手方法(文系・理系共)	Web of Science and EndNote	←外部講師による海外文献検索データベースWeb of Science、文献管理ツールEndNote
国内+海外(理系)	←CiNii Articlesを使った国内文献の入手方法やWeb of Scienceを使った海外文献の入手方法	SciFinder	←外部講師による、化学系の論文検索データベースSciFinder
国内+海外(文系)	←国内文献や機関リポジトリ等で公開されている海外文献の入手方法	クラウドを活用した文献の収集管理	←三重大学で使用できるクラウドを活用した、文献の収集や管理の方法

実施期間・内容は左の日程表で確認してください。

時間: 午前 10:30~12:00
午後 13:00~14:30 / 14:40~16:10

場所: 附属図書館2階/パソコンコーナー
※10/23(火)の回は附属図書館ホームページをご確認ください。

予約優先: 参考調査カウンター、E-mail、電話にて参加の予約をしてください。

連絡先: 附属図書館利用者サービス担当 (情報リテラシー)

【メール】 literacy@ab.mie-u.ac.jp
【電話】059-231-9089

ご予約をお待ちしています!



NEW! MEIPL サポートデスクのスタッフによる講習会

図書館のホームページ <http://www.lib.mie-u.ac.jp/> から Check it out !!

ブックロウの Pick up コーナー

所蔵資料展示「津阪東陽の文事」



2018年6月14日から8月10日に附属図書館玄関ホールで、館蔵貴重資料のうち、津藩藩校有造館の督学(校長)であった津阪東陽に関する書籍を、企画展示「津阪東陽の文事」として10点公開いたしました。東陽は、財政危機下の津藩において、藩校を設立をし、人材の育成によって状況を打破することを提言した人物です。今回の展示書籍は、東陽がわかりやすく伝えようと工夫したものが多く、東陽の人となりを感じられるものでした。なお、展示には附属図書館研究開発室兼務室員吉丸雄哉先生(人文学部准教授)にご協力いただきました。

MEIPL サポートデスク



環境・情報科学館では、MEIPLサポートデスクを開設しています。「ICTサポートデスク」ではパソコンの設定方法やクラウドの活用術など、大学生活での情報関係のいろいろな相談を受け付けています。また、2018年5月に「ラーニングサポートデスク」も増設されました。参考引用文献の書き方、文献の検索方法、文献整理術、レポートの組み立て方、プレゼンテーションの組み立て方等、三重大学における学びに関するあらゆる相談に大学院生が応じます。是非ご利用ください。
<https://msdesk.m.mie-u.ac.jp/>

レファレンスPOP展示報告



2018年6月26日から8月10日にかけて「情報サービス論」(人文学部司書課程科目)の受講生が、附属図書館の参考図書を使ってレファレンスPOPを作成してくれました。「この参考図書、読んでみたい!」と思わせてくれる、素敵なPOPでした。

試験期のマナーアップ活動



今年も前期試験期に自転車整理等のマナーアップ活動を行いました。図書館の前の道路は緊急車両が通ることもあります。ご協力をよろしくお願い致します。

「新生活応援本」展示報告



4月4日から5月11日にかけて「新生活応援本」の展示を行いました。春に新生活をスタートさせる皆さんを応援すべく、レポート、ひとり暮らし、アルバイト、防犯など、大学により早く慣れて、学生生活をエンジョイするための図書を集めました。

オープンライブラリー開催報告



8月8日から10日にかけて、大学のオープンキャンパスに合わせて「オープンライブラリー」を開催しました。玄関ホールで附属図書館を紹介したスライドショーをご覧いただき、図書館ツアーにご参加いただきました。自由見学では、実際に集密書架を動かして、学術雑誌をご覧いただいて、高校の図書館との違いを感じられていた方もいらっしゃいました。約1300名の方にご来館いただきました。



特集

図書館についても一度考えてみよう!

皆さんは、大学図書館をどのように活用して学習や研究をしていますか?今回座談会を企画して3名の三重大の学生さんにお集まりいただき、図書館についてお話いただきました。先輩方の話から、ぜひ図書館を使いこなす技(ヒント、きっかけ)を見つけてください!

柴田 本日は、お集まりいただきありがとうございます。今回は、ぜひ皆さんが図書館を普段のようにお使いになっているのかを三重大の学生さんに向けてお話ししたかったと思っています。どうぞよろしくお願いいたします!

柴田 よろしくお話しします!
■ **図書館の第一印象:広さと資料の多さを感じた**
柴田 入学当時、皆さんは三重大の図書館に対してどのような印象を持たれましたか?

内山 図書館ツアーに参加した際に、高校の図書室と比べると、も広がったので、探すが大変そうだなと思ったのと同時に期待感がありました。

木場 僕は、広さもさうなのですが、資料の多さを感じました。たとえば、市立図書館と比較して、専門的な法律の本がより多くあるように感じ、勉強するには良い環境だと思いました。

柴田 資料の多さを感じてくださったんですね。でも、三重大蔵資料で学習を進めて行く中で、不足を感じたことはありませんか?

木場 資料に対して、そこまで不足を感じたことはないですね。欲しい本はリクエストもしています。他の学生も利用するだろうと思うので、リクエストすると購入してくれるのですが、この制度のおかげで大きく困ったことはありません。

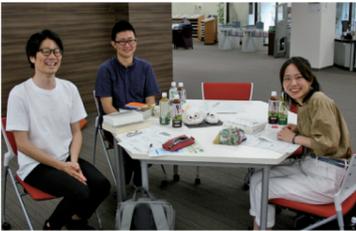
柴田 図書館を利用して行く中で第一印象が変わったと思うのですが、一番記憶に残っている図書館利用のシーンは何ですか?

木場 教養ワークショップの授業で書評を書く際に、図書館で展示されている本を参考にして書評の対象とする本を選んだことが記憶に残っています。

福田 私の学科では、先生から、教科書に記載された問題を解くという課題がよくありました。けれど、授業では全ての内容を理解できないので、全ての問題を解くことができないときが多いんですよ。そんなときに、図書館には類似問題が載っている図書がたくさんあるので、片っ端から解いてみるという事をしていました。そうすることで、基礎が身につくので、課題もようやく解くことができるようになります。自分も理解しやすい説明をしてもらっている本を探すと

なるので、自分が理解しやすい説明をしてもらっている本を探すと

木場 優太 さん
人文学部法律経済学科 4年
福田 涼 さん
工学研究科電気電子工学専攻 M2
内山 めぐみ さん
人文学部文化学科 3年
柴田 佳寿江 (進行)
附属図書館利用者サービス担当



注目 図書購入リクエストって?

必要な本が図書館にない時はぜひ『図書購入リクエスト』してみてください! 図書館の資料として適切と判断した場合は、購入します。リクエストをお待ちしています! リクエストは、Myポータルから!



- ジャック・チャロナー編集 『人類の歴史を変えた発明1001』 小巻靖子[ほか]訳、ゆまに書房、2011
- 伊藤真 著 『憲法 第3版』 弘文堂、2007
- 安達千季[ほか]編 『ゆとり京大生の大学論:教員のホンネ、学生のギモン』 ナカニシヤ出版、2013

ということも頻りにしていましたね。
■ **資料:印象に残った図書との出会い**
柴田 何か印象に残った図書との出会いは、ありましたか?
福田 「人類の歴史を変えた発明1001」です。研究者の研究成果は、すべて何かに繋がっているんです。例えば僕の研究だとマイクローメーションなどのとても小さい材料の表面構造を測定するのですが、その装置も実はノーベル賞レベルの発明だったんです。その発明があったからこそ、今研究できています。そして、自分の研究が今度新しい発明を生んでいくんですよ。その本の新しいページに書いてあるんだなって実感できた1冊だったんです。印象に残っています。電子の凹凸を理解する、そういった装置を使わせてもらっているが、こういった行動も世界の発明の1つ。こういったことを土台にして今の研究があるということを知ることができた1冊です。

木場 難しい授業を理解するための予習や復習で図書館の本を使っています。「憲法 第3版」はそのうちの1つで、このシリーズのおかげで授業を理解することができ、自信を持って試験を乗り越えることができました。

内山 「ゆとり京大生の大学論」という本が印象深かったです。京大で教養教育の改革が行われた時に、先生へのインタビューや学生同士の座談会について学生がまとめた本です。大学で、どのように目的意識を持つべきか、どのように学んでいくべきか考えさせられました。

柴田 どのような図書との出会いが印象に残りますか?
福田 学生の間で面白かった本をお薦めする制度はどうでしょうか。たとえば、「先輩方が読んで面白かった本を紹介する企画」などです。小学校のころはそのような企画を楽しみにしていました。三重大では行われていません。そういうのが段々無くなってきたのが寂しいですね。

内山 私も、学生が学生に本を紹介する機会があればと思います。配布物や展示だけでなく、話を聞ける機会もあればいいですね。私は自分以外の学生だけでなく、本を読むのもいいかと思いますが、私も、でも、何かしらきっかけが無ければなかなか知る機会はありません。図書館に行けば誰かの本のコメントなどが読めるのであれば面白そうですね。



注目 書庫ガイダンスって?

書庫には研究用図書や貴重図書が保管されています。書庫ガイダンスを受ければ、学部学生のみならず書庫に入って資料を調べていただくことができますよ。書庫ガイダンスは20~30分程度で随時受け付けています。参考調査カウンターで参加の申し込みを受付中です。

柴田 三重大の図書館は、「環境情報コーナー」など別置のコーナーがあります。こんなコーナーがあったらもっと図書と出会えたのに!という提案はありますか?
福田 就職関連。資格試験関係もまとめて、「先輩方はこんな資格をとっています」とか、就職活動で役立つこと「みたいな情報も得られるコーナーはどうでしょうか。
就職活動のための本として、業界研究とか自己分析をするための図書は、よく本屋とかで売っています。でもそういった図書だけではなく、企業や学生の現状が書かれている図書も必要だと思います。就職活動ってこういう変遷が起きているの形になったとか、我々が生活は企業からどう見られているかといったことを理解しないと就職活動を乗り切れないかなと思います。企業ばかり見るのではなく、就職活動そのものを理解することも大切かな。こういった図書、図書館は活かしていき、へきたいですね。
■ **最後に「三重大生へのメッセージ」**
柴田 今日はいらるる話をさせていただきました。ありがとうございます。最後に、読者である後輩さんへのメッセージをお願いします。
内山 「書庫ガイダンス」を受講していない学生が多いと感じます。公共図書館では書庫に入れないことが大半ですが、三重大図書館ではガイダンスを受講すれば入れるようになるので是非お薦めしたいです。
木場 そもそも本を読む人が少なくなってきた感じがします。図書館はほぼ学習するところといったイメージを持たれているかもしれませんが、しかし、図書館には幅広いジャンルの本が多数用意されており、専門分野以外でも興味を惹かれる本がたくさんあります。そのような本の出会いの場が図書館であってほしいと思います。
福田 図書館を、堅苦しい場所とは思わなくて欲しいです。図書館って勉強する場所でもなく、本を読む場所でもなく、もっと二人になれる時間くらいにとらえてもらってもいいのでは? サークル、授業とかを通して人と話すことはかなりなので、たまには一人になる場所として図書館は最適です。

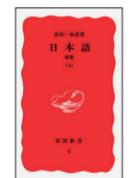


ありがとうございました!

ここから広げよう!!

各学部の先生からのオススメ本 READING LIST

人文学部 澤田 治 先生



金田一春彦 著
『日本語』新版 上・下
岩波新書、1988年1月-3月(岩波新書)
【所在】 図・開架・PB
【請求記号】 810/Ki42/1, 810/Ki42/2

本書は、様々な言語との比較を通して、日本語の発音、語彙、表記法、文法について考察している。例えば、文法の章では、英語の複数形のsは、物を表す名詞にも有生名詞にもつくことができる(例:trees, students)、日本語の「たち」は、物につくことはできないということが議論されている(例:「学生たち」/?「木たち」)。本書を読むことで、日本語の特性のみならず、言語の多様性についても知ることができるであろう。

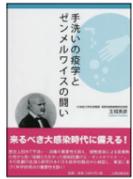
教育学部 松本 昭彦 先生



京樂真帆子 著
『牛車でいこう!』
平安貴族と乗り物文化』
吉川弘文館、2017年7月
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 682.1/Ky5

平安時代の乗り物である「牛車」について、文化的意義を含めて紹介・考察する。唐車・檳榔毛・糸毛車・網代車といった種類ごとの形状や材質、乗る人の身分やランク付け、用法や、それに乗ることの社会的意味など、多様な観点からの考察がある。また牛車を牽く牛や、松平定信の「輿車図考」という江戸時代の研究書など牛車周辺の諸事項にも考察が及ぶ。牛車を中心とした平安時代の乗り物文化についての興味深い一冊である。

医学部 谷村 晋 先生



玉城英彦 著
『手洗いの疫学とゼンメルウィスの闘い』
人間と歴史社、2017年2月
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 498.6/Ta79

原因不明の疾患と向き合い、あらゆる視点から発生頻度を比べてどこまでも原因を追究する科学を「疫学」という。本書は疫学の歴史エピソードであり、産褥熱から多くの妊産婦の命を守った感染防護の父・ゼンメルウィスが、権威主義による否定や抵抗に妨げられながらも、事実に基づいて産褥熱の感染経路を科学的に明らかにし、予防方法を確立した史実である。史実だからこそ面白い。

工学部 小林 正 先生



片山泰久 著
『量子力学の世界: はじめて学ぶ人のために』
講談社、1967年6月(ブルーバックス)
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 421.3/Ka84

私が高校生の時、本屋さんで見つけた量子力学の本である。量子力学が生まれた歴史がわかりやすく解説されている。教科書で結果だけが数行で書かれていることでも、多くの科学者の努力の結果として発見された。発見とは、言われてみれば簡単だが、言われなければ気が付かないものである。そして、世界で一番最初に気が付いた人が偉いのであって、それを知っていても偉くはない。

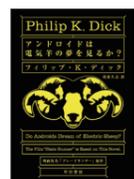
生物資源学部 白水 貴 先生



大園享司 著
『基礎から学べる菌類生態学』
共立出版、2018年3月
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 474/O78

どちらかというと「わかりにくい」生物である菌類について基礎から学びたい方にぴったりの教科書。全12章のうち、はじめの9章で菌類の基礎生物学や生態機能などの基本事項、残りの3章で菌類を対象とした生態学的研究の方法についてわかりやすく解説されている。菌類という生き物を理解するために押さえておくべき基本から、近年新たに取り入れられている研究手法まで一通り学ぶことができる。

教養教育院 赤岩 隆 先生



フィリップ・K・ディック 著
浅倉久志 訳
『アンドロイドは電気羊の夢を見るか?』
早川書房、2011年6月(ハヤカワ文庫)
【所在】 図・開架・図書
【請求記号】 933/D72

1982年公開の映画『ブレードランナー』に原案を提供したフィリップ・K・ディックのSF小説。同映画の続編が『ブレードランナー 2049』として昨年公開され、同小説も話題になっている。『電気羊』の出版は1968年で、アンドロイド(レプリカント)や空飛ぶ車は出てくるが、スマホもパソコンも、遺伝子やクローンの話も出てこない。これははたして、新しいのか古いのか。小説を読みDVDを観て、確かめる価値あり。